ただ今，日本を勉強中！

若　者

黄川田　仁　志*

I am studying Japan now!

Key Words：Japanese history, Diversity, Restructure, System Ecology, Education

1．はじめに

司馬遼太郎の「坂の上の雲」を今，読んでいます．明治の俳人，正岡子規と，日露戦争で活躍した明治の軍人，秋山好古・真之兄弟を中心とした，明治中期から後期の日本を描いた時代小説です．昨年，4年間のアメリカ留学から帰国した私は，幕末から維新回天を経て明治国家ができあがり，その明治国家が昭和になって変質し，第二次大戦で滅んでいく様を語った，司馬遼太郎の作品を読み漁りました．「世に棲む日日」，「翔ぶが如く」，「竜馬がゆく」，「燃えよ剣」，「昭和という国家」，「明治という国家」などです．私はアメリカ留学中に日本史に非常に関心を持ちました．そして，日本に帰ってきて，日本に関する本にふれる機会が圧倒的に増えたので，それに押されるように読み始めました．アメリカで，なぜ日本を学ぶことの大切さを知ったかを，次章でお話したいと思います．

2．なぜ日本を学ぶのか

アメリカの大学院で，研究者は哲学が必要だと教えられました．

哲学というのは，学問をする者ならば学問の進めるべき方向性，また自分の人生を考えるならば，どう生きるべきかという人生の方向性を与えるものであると学びました．ヨーロッパやアメリカでは，工学博士も農学博士も理学博士も経済博士もみんな“Doctor of Philosophy”で呼び方はひとつに括られます．すなわち，哲学博士ですね．工学博士は工学を通じて哲学をし，経済博士は経済学を通して哲学をし，理学博士は理学を通して哲学をし，農学博士は農学を通して哲学をし，自分はどう生きるべきか，社会はどうあるべきかを思考する人達だと思いました．私は“Doctor of Philosophy”の意味を，そのように理解しました．私は環境学を学んでいます．そして私が研究者として，その学問を通して，社会を見，人間を見，自然を見，テレビを見，絵を見，世の中のすべてのことに対して，どうしたら環境が良くなるか考えるための哲学が必要であると思いました．そして，私の哲学を確立する上でなにが基礎となるか考えました．その答えは，私が日本人であること．そして，日本で育ったことであると．私の哲学は，日本の文化や宗教観，そして歴史を学ぶことを出発点に創り上げていくことにしました．

こうして，私はかの地の大学院で，環境学を学ぶかたわら，自分の国，日本を学ぶことの大切さを痛感していました．しかし，私は恥ずかしいくらい日本を知りませんでした．そして，日本に帰ってきて遅れ馳せながら，日本の歴史小説を読んでいる訳であります．

私は，この場を借りて，私が少なからず得た日本史と，アメリカ留学の得た経験とをおれまぜて，話そうと思います．今回は紙面の都合上，江戸の多様性と，明治維新という大リストラについてまとめてみました．

3．江戸時代の幕藩体制～多様性について

私はアメリカのメリーランド大学大学院で環境学を専攻しました．そのプログラムの中でも，主にシステムエコロジーを勉強しました．システムエコロジーは生態系(エコシステム)内の食物連鎖によるエ

*Hitoshi KIKAWADA
1970年10月13日生
米・メリーランド州立大学大学院・沿岸海洋環境学
現在，大阪大学大学院・在学中，工学部・土木工学科・水理工学・博士後期過程2年，Master of Science，水理学，生態学
TEL 06－6879－7605
FAX 06－6879－7607
E-Mail kikawada@civil.eng.osaka-u.ac.jp

ネルギーや物質の流れを分析し理論を作り上げる学問です．たとえば，生物の多様性や食物連鎖の複雑性を評価するのこともその研究のひとつです．

生物が多様に棲み，捕食関係が複雑で，食物連鎖の鎖が多いエコシステムは，自然状態の変化に対して強く，適応性が高い．なぜなら，なんらかの原因で，システム内のある生物がいなくなっても，ある生物間の物質移動の鎖が切れても，それを補う生物や連鎖網があるので，システムが突然壊れてしまうことはないのです．

反対に，鎖が少ない食物連鎖網が単純なエコシステムは，物質の循環効率という点で優れ，システム内をエネルギーや物質が大量に流れていきます．自然状況が安定していて，変化がない時は，生存競争に打ち勝った生物を中心に効率の良いシステムをつくりだします．しかし，その効率の良いシステムの中心をなしていた，生物がいなくなり，連鎖網の鎖が切れるとシステムがすべて機能しなくなる恐れがでてきます．

エコシステムも社会システムも似たようなことがいえるのではないでしょうか．多様で変化に強いシステムが江戸時代の幕藩体制で，単純だが効率性の高いシステムが明治時代から続く中央集権国家の社会システムです．

江戸時代の日本は，大小300もの藩に分かれ，それぞれが独自の教育制度，階級意識，道徳観が存在していた多様性のある時代であったといえます．たとえば，薩摩藩は島津斉彬の指導下，他藩に先駆けて産業や軍備を近代化し，維新の政治的，軍事的主役となりました．長州藩は他藩に比べて階級意識薄く，高杉晋作は士農工商のすべての階級から兵を募り奇兵隊を編成し，四民平等の概念の基礎をつくりました．土佐藩は士族内の上下関係が厳しく，下級士族から多くの脱藩者を出し，そこから坂本竜馬や中岡慎太郎を誕生させ，自由に各藩を行き来し，薩摩藩と長州藩の繋ぎの役割を果たし，倒幕に不可欠であった薩長同盟を完成させました．これらの藩は，次時代に引き継げる人材や価値観や制度をつくり，江戸時代から明治時代に移行する日本の転換期を支えました．

1853年のペルー来航以来つづく列強諸国の圧力によって，日本の状況は一変し，社会状況が変化しました．そして，外圧から生じた社会状況の変化に対して，多様であった幕藩システムの中から長州藩と薩摩藩が生き残り，近代日本を創り出しました．そして，明治は東京政府の中央集権国家し，列強諸国に対抗すべく，効率のよい体制をつくり，国家主導で産業，軍事，社会インフラを急速に整備し，他のアジア諸国が植民地化される中，日本は生き残っていきました．その明治中央集権国家も第二次世界大戦により滅びましたが，戦後の国家は中央集権を引き継ぎ，東京一極集中の下，戦後経済を効率よく引き上げることに成功し，日本を経済大国に導きました．日本は，冷戦構造という比較的安定した世界状況下で経済を成長させることに邁進することができました．

しかし，経済の右肩あがりの時代は終わり低成長やマイナス成長の時代になり，世界では冷戦構造が崩れ，昔のように安定した未来予測が比較的容易な時代は終わろうとしています．これからは不安定な，予測不可能な時代の到来を予感されます．このような時代に，過去の歴史に学ぶならば，日本社会を再び多様な社会にするべきではないかと考えを巡らせます．江戸日本が藩独自の社会システムをもっていたように，地方自治による地方分権国家に創り直すことです．それぞれの自治体で社会状況にあった社会システムを独自に作り上げ，他の自治体と競争し，切磋琢磨していくのです．それぞれの自治体のシステムが時代のテストを受けるのです．そして，時代に生き残ったシステムを，日本の共通のシステムとしてとり入れていくのです．東京一極集中のシステムでは効率面ではよいが，東京が潰れれば，みんなが潰れてしまいます．システムのリスク管理から考えれば，地方分権はこれから重要な課題でありましょう．

4．武士の失業～リストラクチャーについて

明治維新は革命を起こした武士が，自らを失業させてしまうということをしました．当時，武士はその家族を含めると，日本の全人口の7％を占めていたといわれます．それが，わずかな失業手当みたいなものをもらって，新政府により一方的に武士業から解雇されてしまったのです．明治になって，階級制度がなくなって士族階級が消滅し，徴兵制の導入によって一般の農民でさえも兵役が義務付けられると，武を掌っていた彼らはその社会的価値を無くしました．

江戸時代は，世界史の中でもまれにみる平和で安定した社会であり，260年も続きましたが，列強諸

国の帝国主義の到来という社会的変化は，江戸封建社会の変換を迫りました．すなわち，社会システムのリストラクチャーが必要になりました．そして，江戸社会の頂点に属する士族自ら自己改革をしなければならなかったのです．

日本は，低成長時代や少子高齢化の社会状況の変化に備えるために，社会システムのリストラクチャーを必要としています．また，官僚の汚職や警察の不祥事に見るように，現在の日本のシステムにほころびが生じはじめてきています．日本は今，まさに自己改革の時期に来ているのではないでしょうか．

しかし，社会システムの急激な変化は，それに対して準備なく行うと，いたずらに混乱を招いてしまいます．明治維新は，佐賀の乱，神風連の乱，秋月の乱，萩の乱，西南戦争と続く一部の士族の反乱を招いてしまいました．不平武士の反乱のような社会的混乱を起こさず，リストラクチャーを行うにはどうすればよいのでしょうか．

それには，まず新しいシステムに備えた教育を充実に着手することだと思います．その教育のシステム整備の柱は２つあります．第一に，再教育制度の充実させること．第二に，複数の専門科目の取得を可能にすることです．これらの教育制度はすでにアメリカの大学に存在しています．

はじめに，再教育制度の充実についてですが，大学を再教育の場にするのです．なぜ日本の大学は，少子化による高校生の減少に伴なう学生不足の問題に対して，社会人を積極的に入学させないのでしょうか．アメリカの大学では30歳や40歳の同級生が沢山いましたし，彼らは現在と違う職業や，新たに生きる場を求めて大学に再入学してきました．また，高校を卒業した後いったんは職に就き，勉強がしたくなって大学にきた人もいました．これら社会人が自分の必要に応じて教育を受け，知識を身につけることができれば，社会の変化に対して柔軟に対応できるのではないでしょうか．

次に，複数の専門科目の取得を可能にするということですが，アメリカにはMajor(専門科目)に対してMinor(準専門科目)というものがあります．Minorとは，Majorとして学位を取得するほど単位は取得していないが，ある程度の単位を取得し学科の知識は満たしているということで見とめられる準学位的なものです．がんばって，さらに単位を取るとDouble Major(専門学科を２つ持つこと)として認められもします．私の友人で考古学者を志している学生がいました．考古学をMajorにする一方で，コンピュータサイエンスをMinorにしていました．彼は幸い，考古学に関連する職に就くことができましたが，それがもし叶わなかったとしても，コンピューター関連の会社に行くこともできました．現在，彼は考古学にコンピュータの知識を生かして活躍しています．また，私のいた大学院の沿岸環境学プログラムに入学してきた学生で，学部時代にMajorは経営学でMinorとして環境化学を取得していた人がいました．そして，彼は会社で多くお金を稼ぐより，自然環境を守ることに貢献したいということで，Minorであった環境化学の知識を認められて，大学院に勉強しにきたのでした．

このように，再教育できる場が提供され，加えて様々な分野にまたがって活躍できる人材を育成することを可能にすれば，社会の構造が変化し，時代の必要とする産業が変わっても，社会のリストラクチャーは大きな混乱を経ず，実行できるのではないでしょうか．

明治政府は，廃藩置県により武士を一挙に解雇し，次代の日本のために非情なリストラを断行しました．その自己改革の勇気は賞嘆に値します．そして，私達がその経験から学び，昔の人よりほんの少しだけ賢くなるならば，リストラに耐えうる，教育制度を充実させ，明治初期に起こった士族の反乱のような社会的混乱を招かないように準備し，社会の変革を行うのです．江戸時代の社会制度は260年続きました．それと比べれば，今の社会制度など変えられないはずはありません．できない理由より，できる方法を探しましょう．

5．お　わ　り

私達は未来にむかって歴史を作っていかなければなりませんが，それと同時に過去の歴史も作っていく必要があります．歴史に忘れられていた人物や事件を再評価し，未来への指針や価値観に加えていくのです．私達がどのような社会を築くべきかというヒントが豊富にあると思います．本稿では，その日本の過去，その一部の幕藩体制，明治維新に触れただけでしたが，日本の歴史，文化，価値観を基礎として，さらに外国から学んできたことを自分なりに取り込み，積み上げ，自分の哲学を築けたらと思っています．ただ今，日本を勉強中！